

5-6

特別養護老人ホームにおけるターミナルケアの実践事例

住み慣れたホームで充実した最期を迎えていただくために

ターミナルケア

施設での看取り

和田堀ホーム

介護副主任 瀧澤麻紀子

介護職 佐藤美智子 統括主任 池田正子

東京都杉並区和田 2-27-8

TEL: 03-3316-2943

E-mail: abe@shinsyounokai.or.jp

FAX: 03-3316-2973

URL: http://www.shinsyounokai.or.jp/

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

平成12年4月に杉並区に開設された特別養護老人ホームです。短期入所生活介護、居宅介護支援、認知症対応型通所介護も提供しております。

〈取り組んだ課題〉

- ターミナルケアにおける職員の関わり方、ケアのあり方（ご利用者が充実した最期を迎えられるために）
- ターミナルケアを行うために必要な知識、技能の習得
- ターミナルケアを行うための条件整備
 - ・ ご家族の意思確認
 - ・ 夜間帯に医師、看護師がいないことへの対応策

〈具体的な取り組み〉

- 3名の方についてターミナルケアを実践（内1名については自宅引取）
 - ・ 高齢で延命のためには輸血が不可欠な方について、ご本人とご家族の強い意思を尊重してホームでの看取りを行ったケース
 - ・ 末期の癌と診断され、病院からホームでの看取りをすすめられた方について、ご家族との協議を続けながら、ホームで看取りを行ったケース
 - ・ 心不全で入退院を繰り返しておられた方について、可能な限りホームで介護を続けていたが、最後は本人の強い意思を尊重して自宅に引取られて亡くなられたケース
- 統括主任による職員への講習会の実施
- ターミナルケアについてのご家族と職員の思いについてアンケートを実施
- 夜間帯に亡くなられた場合の連絡網、その後の対応についての事前準備

〈活動の成果と評価〉

- ターミナルケアの実践を通じて、ご利用者が住み慣れた施設で最期を迎えられることの大切さを感じることができた
- 共通の課題に職員が一丸となって取り組むことで、未知の問題に対処する場合の心構えができた
- アンケートの分析を通じて、施設でターミナルケアを行う上でのご家族と職員の考えを知ることができ、それを今後のケアに反映させることができた
- ターミナルケアに必要な知識、技能の習得を通じて重度化していく特養での介護のあり方について考える契機となった
- ターミナルケアを実践するに際しての条件整備を通じて、多職種間の連携、家族との連絡調整のあり方を学んだ

〈今後の課題〉

- ターミナルケアを行うにあたってどのような対応がご利用者にとって最善なのかを考え、ターミナルステージにおける介護のあり方を模索していく必要がある
- 職員のメンタル面のケア
- 他職種との連携
- 特養でのターミナルケアの必要性は今後より一層高まっていくと思われるが、どのようなケースが特養での看取りに相応しいのかを再検討する必要がある

〈参考資料など〉

- 和田堀ホームの職員ならびにご利用者に実施したターミナルケアに関するアンケート